

♥♥♥♥♥ことばを育てる親の会北海道協議会 ♥♥♥♥♥HSK ♥♥♥♥♥

HSK

会報

昭和48年1月13日第三種郵便物承認 HSK通巻第628号

(毎月10日発行) 2024年7月10日発行

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会 会長 山本光子

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東6-12

札幌市立中央小学校ことばの教室内

TEL011-241-2533 定価100円

♥♥♥♥♥2024.7.10 ♥♥ No.186 ♥♥♥♥♥



会長就任にあたって

特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会

会長 山本光子

(栗山町ことばを育てる親の会会長)

令和6年度定期総会(5月18日)において、ことばを育てる親の会北海道協議会会長に就任いたしました。前会長の福井 紀郎さんは4期8年間を北海道協議会にご尽力いただきありがとうございました。その間、コロナ禍での活動に大変難儀されたことと思います。

私は栗山町ことばを育てる親の会に属して45年が経ちました。北海道協議会の理事として15年ほどの関わりとなり、その間、各地区の親の会や理事との交流は大きな学びの場となり感謝しております。今後も微力ではありますが、各地区の親の会と協議会のために務めさせていただきますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

さて、この頃、ことばを話した後に、なぜか疑問がよぎることがあります。情報技術は著しく進み、声を発せずとも意思疎通が可能になりつつあり、ことばの進化(発達)の未来に不安を覚えます。昨今のニュース等を見ても、問題発生要因はことばの足りなさから生じているのではと、感じるがあります。自己主張のみで相手の思いも想像できない発言がエスカレートして大事件になっていくのではと思います。

日々のことば遣いが若者風に進化(変化)し、適切かつ気持ちよく伝わることばの使い方が失われつつあります。ことばの本来の意味を理解し使うことなく、新語や流行語の溢れる中で人とのよい関係を築けるでしょうか。会話が直接、心ある身体ではなく、ラインやSNSで繋がることに利便性を感じる今どきの状況に逆らえませんが、私たちは「ことばは人間だけに与えられた能力」と再認識し使うことで、後世に伝えていくことが大事かと思えます。

最近、アサーティブ・コミュニケーションということばを知り調べますと、豊かな人間関係を円滑に築くスキルや具体例などがありました。先人たちが知らず知らずに行い繋げてきたことが、今は専門家からの情報を頼りにする時代になりました。このことは、北海道協議会や地区親の会の運営には専門的な情報も必要で、ましてや子供たちの教育には不可欠です。

北海道協議会・地区親の会の意義を再確認し、子どもたちにとってよりよい親の会を目指しましょう。

令和6年度 定期総会報告

初夏を想わせる陽気となった5月18日土曜日の午前10時から、カデル2・7の510会議室を会場に令和6年度定期総会が開催されました。コロナ感染症が二類相当から五類相当に変更になって二年目の今年も、昨年同様に対面とズームによるリモートのハイブリッド形式での開催となりました。

以下、定期総会議案書ならびに議事録に基づき、報告をします。

開会宣言の後の会長、御来賓の方々の挨拶に続いて議長の選任が行われ、千歳地区の大滝優実氏が議長に、札幌地区栗田有希子氏、北広島地区田島薫氏の二名が議事録署名人に選出されました。議長より正会員総数30地区のうち、会場参加5地区、ウェブ参加4地区、書面による委任が11地区合わせて20地区の参加により正会員総数の過半数を超えていることから、総会が成立していることが告げられ、議事が開始されました。

議事1では令和5年度実施した五つ事業や活動経過の報告がなされ、承認を得ました。

議事2では令和5年度決算報告、議事3では監事による監査報告がなされ、承認されました。

議事4では新規事業の各地区研修会補助事業を含めた令和6年度事業・活動計画案が提案され、5点にわたる方針案とともに承認されました。

議事5では前年度と総額がほぼ同額の令和6年度予算案が提案され、承認されました。

議事6では今後も理事会において全道大会開催に向け検討を行うことが承認されました。

議事7では役員改選がありました。次期理事として齊藤寛子氏、山本光子氏、福島美恵子氏、太田眞知子氏が承認されました。薄田知春氏、石川俊男氏は理事を退任、福井紀郎氏は理事と会長を退任しました。

この後、議場は20分間の休憩に入りその間に新理事の互選による会長の選任が行われました。再開された議事において会長に山本光子氏の就任、副会長に齊藤寛子氏の再任、顧問に石川俊男氏と福井紀郎氏が就任することが承認されました。

また、理事退任後の地区からの理事推薦が挙がってこないため理事の欠員が常態化し北海道協議会の運営に支障をきたすことから、「今回の役員（理事）改選については今後理事会において新理事を承認した段階で、総会での議決を経たものとする」という提案が、承認されました。

次いで「札幌及び札幌近隣地区からは複数の理事推薦を認める」という提案も承認されました。

議事8として、議長はその他の議案の提案を確認したところ、提案はありませんでした。

以上をもって総会の議事はすべて終了しました。

なお、引き続いて行われる予定の「意見交換会」は会場借用時間の都合で実施できなかつたため、後日ウェブで実施されることが事務局から参加者に伝えられました。
(文責 理事 福島 美恵子)



ご来賓の方々のご挨拶



特別支援教育の推進に向けて

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課
課長補佐 山内 功

令和6年度、特定非営利活動法人ことばを育てる親の会北海道協議会定期総会の開会に当たり、北海道教育委員会といたしまして、一言御挨拶を申し上げます。貴会におかれましては、日頃から、障がいのある子どもの教育や福祉等の振興・充実に向けた取組や道教委の施策に御理解と御協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

特に、言葉に障がいのある子どもに対する多種多様なニーズに応える活動に長年取り組まれてきたことに重ねて敬意を表する次第です。

さて、本道においては、通級による指導を受けている児童生徒数が令和5年には10年前と比較して約2倍になるなど、年々増加しています。通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒数も毎年増加しており、通常の学級に在籍しながら一部障がいの状態等に応じた特別な指導を受ける「通級による指導」へのニーズや期待は、今後、ますます大きくなっていくものと考えています。

こうした中、国の報告では、「通級における指導を受けることが必要と思われるにも関わらず、様々な理由により受けていない児童生徒が在籍している可能性がある」ことが指摘されています。本道においても、通級指導教室を設置している市町村は約半数の52%に留まっていること、小学校と比べると通級指導教室を設置する中学校が極端に少ないことなどが課題となっており、切れ目のない指導・支援の充実に向けた体制を整えることが重要と考えています。

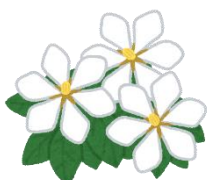
こうしたことから、道教委では、本年度から文部科学省の「効果的かつ効率的な巡回指導の実施に向けたモデル構築事業」を実施しており、本事業では、市町村教育委員会等と連携し、通級指導教室の設置拡充に向け、巡回指導リーダー教員が、近隣の学校への巡回指導や理解啓発を図るほか、担当教員の専門性向上に向け、年間を通じた研修会を実施するなど、子どもが「通級による指導を受けて良かった」と思える成果を出していくことを目指しております。

本日、御参加の皆様におかれましては、こうした事業の趣旨について御理解いただくとともに、引き続きの御協力をよろしくお願いいたします。

本日の協議会を通して、御参加の皆様が、言葉に障がいのある子どもの教育について意見交換をしたり、情報を共有したりすることは、子どもの教育環境を充実させる上で大変重要であると考えておりま

す。

結びに、今後も、各地域における特別支援教育の推進に係る取組に積極的に参画していただくなど、貴会のより一層の発展を御期待申し上げますとともに、本道の特別支援教育の推進に向け、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。



早期発見及び適切な早期療育についての地域との協働

北海道保健福祉部子ども政策局子ども家庭支援課
課長補佐 関本 みちよ

「令和6年度 ことばを育てる親の会北海道協議会 定期総会」が、全道各地の皆様のご参加の下、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

本協議会の皆様におかれましては、ことばやきこえなどに心配のあるお子さんの教育や福祉の向上のため、特別支援教育研修会や親子キャンプの実施など事業に積極的に取り組まれるとともに、教育的なニーズに応じた専門性の高い指導を受けられるよう活動を進められており、心から敬意を表します。

また、福井会長をはじめ、役員の皆様、会員の皆様には、日頃より、本道の障がい福祉行政の推進に御理解、御協力をいただいておりますことをこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

さて、聴覚に障がいのあるお子さんについては、早期に聞こえにくさに気づき、ことばや知識を学ぶための適切な支援を行うことが重要であることから、北海道では、北海道教育委員会と連携して、聴覚に障がいのあるお子さんへの支援に携わる市町村子ども発達支援センター等の関係職員に対して、難聴に関する基礎的な事項を伝達する研修や、個々のケースに応じた対応能力の向上を図るための研修を各地域において実施しております。

また、道では本年3月に「第1期ほっかいどう障がい福祉プラン」を策定し、国指針にもございます難聴児支援のための中核的機能を有する体制の確保に向けて、取り組みを進めることとしています。

今後とも、聴覚に障がいのあるお子さんの早期発見及び適切な早期療育について、地域における様々な機関や関係団体の皆様との協働により取り組んでまいりますので、引き続き、皆様の一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、本日の総会が、皆様にとって実り多いものとなることを御期待申し上げますとともに、「ことばを育てる親の会北海道協議会」の益々の御発展と、本日お集まりの皆様の御健勝をお祈り申し上げ、挨拶といたします。



保護者の皆様、関係機関の皆様との情報共有、連携を大切に



北海道言語障害児教育研究協議会（道言協）
会長（札幌市立琴似小学校長） 三浦 聡

令和6年度、北海道言語障害児教育研究協議会（道言協）の会長を仰せつかりました札幌市立琴似小学校長 三浦 聡と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は総会の開催、誠にありがとうございます。また、日頃より、本会の活動に対しまして温かいご支援、ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

道言協は北海道におけることばやきこえの教室での教育や療育の充実を目指し、1968年に発足いたしました。主な活動としては、日常的な研究・研修に加え、共催させていただいている言語障害臨床研修会や全道の会員を対象とした研究大会等を行っており、それらを通して会員の専門性及び指導力を高めるとともに、道内の通級指導教室や療育機関における指導のさらなる充実を図ることを目的としています。また、活動を通して会員相互の親交を深め、各地域における通級指導の成果や今後の課題を交流し、関係機関等に発信していく組織としての役割も果たしてきました。

令和5年度は、「第56回北海道言語障害児教育研究大会 空知大会」を岩見沢市において開催いたしました。ここ数年、感染症拡大防止の観点から参集を見合わせておりましたが、開会式をオンデマンド配信としつつも、分科会は岩見沢市立中央小学校を会場に会員が会同して研究大会を行うことができました。各ブロックでの実践をもとに、全道の会員が意見を交わす、熱気にあふれた研修となりました。開催に際しまして、御協力いただきましたことを、この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

今年度は、9月27日金曜日、「第57回北海道言語障害児教育研究大会 日高胆振大会」を、苫小牧市を会場に開催いたします。「ことばを育てる親の会北海道協議会」様には、引き続き御後援いただけますと幸いです。

さて、近年の特別支援教育の情勢ですが、全国的にみると学齢期の児童生徒数が減少している中でも、特別支援教育に関する必要感が高まっており、文科省の統計によると、この10年間で指導の対象児童生徒はおよそ2倍になっています。通常の学級に在籍しながら通級による指導を受ける児童生徒数は、この10年間で2.5倍以上となっています。

特別支援教育の在り方については、多様な学びの場において、少人数の学級編制と一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導と支援を目指し、段階的に充実が図られてきていますが、広域・分散型である本道においては、可能な限り身近な場所で専門性の高い教育を受けられるよう、教育環境の整備や教育内容の充実、指導の質の向上が求められるところです。通級に関しても、現状、在籍学級の授業を抜けて通級指導教室に送迎する必要があることから、時間の制限や保護者の負担等を考えると、設置校の更なる増加を期待するところです。しかしながら、全国的な教員不足は北海道も例外ではなく、学校においては教員定数に対する欠員が続いており、また、経験の少ない若い職員の比率も増え、人材の育成が大きな課題でもあります。

その様な中ではありますが、今後も、保護者の皆様、関係機関の皆様との情報共有、連携を大切にしながら活動してまいりたいと存じます。今後とも、道言協の活動に対しまして、変わらぬ、ご理解とご協力をお願いするとともに、ことばを育てる親の会北海道協議会の益々の発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

令和6年度 特定非営利活動法人
ことばを育てる親の会北海道協議会 役員

顧問	跡部敏之	土谷さとる	高井祐二	坂本 武	福光哲夫
	福井紀郎	石川俊男			
相談役	山根 勸	谷口恵美子	谷口大朗		
会長	山本光子				
副会長	齋藤寛子				
理事	福島美恵子	太田眞知子	瀧澤 聡		
監事	菅原有美	秋本ひとみ			
事務局長	(未定)				
事務局次長	丸山大樹				
事務局員	沓澤真紀子(会計)	高田慶子	佐藤美紀	竹森陽子	
	市川すみれ	森田 希	赤坂 玲		
事務局校	札幌市立中央小学校、札幌市立清田小学校、札幌市立前田小学校 各ことばの教室				

今年度、福井紀郎さんが退任され、山本光子さんが会長に選出されました。福井さんは顧問に就任されました。石川俊雄さんが理事を退任され顧問に就任されました。薄田知春さんが理事を退任されました。協議会へのご尽力に心よりお礼申し上げます。理事会で承認され新しく瀧澤聡さんが理事に就任しました。よろしくおねがいたします。



回 顧

福井 紀郎

会員の皆様方には私が会長を務めさせていただいた4期8年の間、本会活動への深いご理解とご協力をいただき大変ありがとうございました。退任にあたっては様々な思い出が巡りますが、皮肉にも会長2年目の会報巻頭言で認めたものが今の心境を言い得ていると感じますので、再度紹介して御礼に代えさせていただきたいと思ひます。

【以下、抜粋で紹介】 私にとっては会長として迎える初めての総会でしたが、長く務めた副会長としての出席とはまったく立場の異なるものであり、この総会の開催により「会長としての1年間」を初めて経験して、その重みを今更ながらに痛感したところです。感覚的には、我が子の障害を認めざるを得なくなり、必死で（療育や対応や知識を高めることに）走り始めたあの頃に似たような感覚さえ受けました。

そんな中で一番感じた思いが「誰が私の次（に会長）をやれるのだろうか」ということでした。就任して僅か2年でこのようなことを書くのは、「自分が早く（会長を）降りたい」とか「適任者がいない」とか、そういうことではないのです。設立から50年を超える歴史を持つ会の代表として活動するとき、その基本理念は変わらずとも、時代背景の大幅な変化に伴って運用も大きく変えてゆかなければならないことが少なからずあります。それを私が（ほかの役員や顧問の皆様のご協力をいただきながら）「会長をやりやすい会に変えてゆけるか」という自分への葛藤が常にあったということなのです。

かつて私が「子どもに重い障がいがあること」、「その子たちが暮らしやすい社会になるよう、親の会や地域づくり活動に取り組んでいること」を芸術活動の懇親会の場でカミングアウトしたときに、師と仰いでいた方から「フク（こう呼ばれていました）、よくそれだけの状況の中で一緒にやっていた辛い思いを話してくれた。きっとこれから長い間「長」として活動してゆくと思うが、孤独に耐えなければならないのが「長」だ。きっとお前ならやれる。これからもがんばれ。」といわれた言葉がずっと頭の片隅から離れずにいました。会長だからだれにも手伝ってもらえないとか、そういう意味ではないのです。会長として「決断」しなければならない瞬間は数限りなくあります。これまでに幾度となく見てきた諸先輩方の振る舞いや、実際に教えていただいたことや、各地区を回る中で見聞きする実態や、自分の信念や、自分のもてる能力のすべてを使って「決断」するのですが、そういった瞬間には「とてつもない孤独感」に襲われます。正直、不安で仕方がありません。自分の発言が持つ意味・重みは常に考えています。でも主張すべきことは正しく主張しておかなければならない。まだまだ未熟だなというも反省しながらも、少しずつではありますが向上しているかなとは思っています。

そんなことを考えながら1年間会長を務め、私と同じ都道府県の会長の立場にいる方たちと意見交換をする機会に恵まれました。全国ことばを育む会の総会です。研修会の後に行われる懇親会、そして二次会へと意見交換が続いたとき、思わぬことを言われました。「福井さん、会長ってというのは孤独なもんよのう」と。普段から感じていること、心がけていること、これから向かおうとしている方向性、まるで「私の頭の中みた？」というくらいほとんど一緒でした。私はまだ40歳代ですが、70歳を超える（その）方でも同じ思いなんだと安堵するとともに、（失礼ながら）その年になってもまだ私と同様に向上心を維持しておられるんだと、自分の甘ささえ感じました。【引用終わり】

気力・体力、そして（各種の）処理能力も充実した時期に会長を任せていただいたことは幸運でしたが、それに相応しい成果を十分に上げられなかったことには忸怩たる思いが残ります。これよりは一保護者として子どもたちの健やかな成長を願うとともに、会員の皆様・ご家族のより一層のご健勝を祈念しております。

会長在任時代を含め、長い間お世話になりありがとうございました。



「親の会」を離れて

石川 俊 男

最近、NHK の、発達に関連する番組で「アタッチメント」や「愛着」ということばが、かなりの頻度で見受けられます。私にとっては20年くらい前から馴染みのあることばでした。

なぜ今になって「アタッチメント」なのか、調べてみました。『こども家庭庁』から「こども大綱」（令和5年12月22日閣議決定）が出ていたのです。こども施策に関する基本的な方針の6本の柱の一つに

④「良好な成育環境を確保し～・乳幼児期からの安定した愛着「アタッチメント」の形成を保障するとともに、愛着を土台として、全てのこども・若者が、相互に人格と個性を尊重されながら、安全で安心して過ごすことができる多くの居場所を持ち～自己肯定感や自己有用感を高め～」とありました。

これまで、こどもの成長発達をとらえる時に、私が大事な指針のひとつとして考えてきたことでしたので、ようやく日の目を見たような気持ちになりました。M.S.エインズワースや J.ボウルビィのいう『安全基地』は、次のステップに向かうために大事なことだと、今にして思い出しました。

「アタッチメント」について詳しく調べたい方は、2005.4.5 初版「アタッチメント生涯にわたる絆」、2007.10.20 初版「アタッチメントと臨床領域」の二冊ともにミネルヴァ書房、数井みゆき・遠藤利彦（編者）が良いと思います、古本屋さんにあるかも。

「親の会」って何なの？ こどもを支える大人たちを支え合う『安全基地』ではないでしょうか。親の会って必要？親の会に入ってよいことある？ と思う人もいるでしょう、だれでも独りよがりの考えになってしまうことはあるのでは？こどもを真ん中においた、そういう場も必要なのではないのでしょうか、親の会を離れて、今特にそう思う今日この頃です。

「親の会」ありがとうございました、長い間お世話になりました。



退任の挨拶

網走市ことばを育てる親の会

薄田 知春

皆様からの温かいご指導をいただきながら短い期間ではありましたが『NPO 法人ことばを育てる親の会 北海道協議会』理事を務めさせていただきました。

しかしながら、諸事情により退任をすることとなりました。

発達障害を持つ子を育てる親として、日々様々な困難、喜びに直面しております。

その中で、どうしても自身では解決できないような問題を抱えていた時、親の会主催の茶話会に参加さ

せていただきました。先輩ママさんよりアドバイスをいただき、知らなかった情報を教えていただきました。一番心強かったのは、「悩んでいるのは私一人ではない、頑張ろう」と思えたことでした。これからも、悩みを抱えている親子の大きな窓口になってほしいと思っております。

言葉に困難さを抱える子供達や、その親のためにより良い環境を目指して、本協議会の今後の益々の御発展を願うとともに、皆様とのご縁に感謝しております。

ありがとうございました。



新理事よりご挨拶

よろしく願いいたします

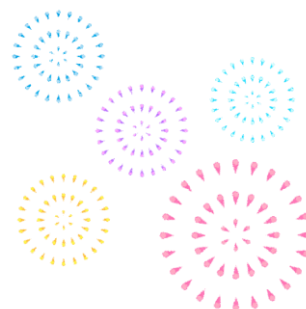
北翔大学 生涯スポーツ学部スポーツ教育学科
瀧澤 聡

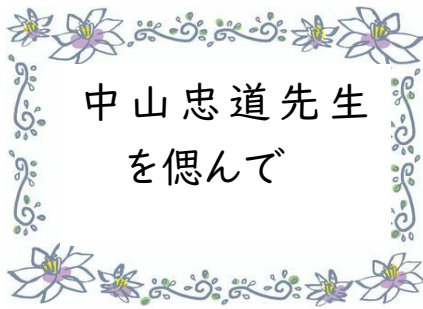
この度、石川理事の後任として新理事となりました北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科の瀧澤聡(タキザワサトシ)と申します。大学では、主に教職課程を担当し、特別支援学校と中学・高校保健体育科の教員養成に従事し、今年で11年目をむかえています。私のゼミに所属した卒業生は、特別支援学校、高校と中学校の通常学級そして特別支援学級の教員として活躍しています。私の専門は、特別支援教育や発達障がい・言語障がい教育、シェルボーン・ムーブメントなどです。

前職は、トータルで18年間ほど札幌市立小学校の「ことばの教室」及び「まなびの教室」の通級指導教室教員でした。この間、ことばを育てる親の会北海道協議会や札幌市ことばを育てる親の会の各事務局のお手伝いや道言協(北海道言語障害児教育研究協議会)の事務局長等として活動したりしていました。

これまでの経験などを踏まえて、本会のために微力ながらお手伝いさせていただきたく、理事として精一杯つとめさせていただければと願っています。

どうぞよろしくお願い申し上げます。





中山忠道先生 を偲んで

長年釧路市や深川市ことばの教室でご尽力いただき本会の顧問の中山忠道先生が永眠されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

中山先生長い間ありがとうございました

特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会
顧問 跡部 敏之

中山忠道先生は3月29日忽然と黄泉の国へ旅立たれました。謹んでお悔やみ申し上げるとともに哀悼の誠を捧げます。

3月25日、石川俊雄氏と3人で会う予定をしておりましたところ、当日になってそれぞれの都合がつかず、それでは近いうちにお会いしましょうということになりました。それから10日ほどたった4月4日石川氏から中山先生の訃報が入りました、只々驚くばかりで俄かに信じ難い知らせでした。つい先日元気に話したばかりなのに…しばらくことばが出てきませんでした。

中山先生、あなたは言語障害児教育の黎明期に本当に大きな業績を残されました。昭和42年言語障害児教育のため釧路市旭小学校からお茶の水女子大学・田口研究室に派遣され研修を積んで同43年には旭小学校のことばの教室担当となり、同44年には「第3回言語障害児を持つ親の会全道大会・釧路大会」を企画実施して下さいました。その緻密な計画とスピード感には目を見はるばかりでした。

また、障害の「早期発見早期指導」の原則にのっとり早くから幼児の言語治療に思いをはせ昭和48年には転勤先の釧路北中学校内に幼児言語指導所を併設させました。これが先駆けとなって全道の公立学校のことばの教室に幼児の言語指導部門を併設する形が普及していったのです。その後も「道言協」（北海道言語障害児教育研究協議会の略称）の幼児問題検討委員会の中核としてこれらの課題解決に全精力を注ぐ等、広範囲にわたって地道な活動をされました。

昭和50年請われて深川へ転居し、深川小学校ことばの教室を担当し、北空知周辺自治体に居住する子どもたちをも取り込めるように仕組みを整える一方、各市町村にことばの教室を設置するべく働きかけをしました。深川中学校の敷地に独立した全く別棟の「ことばの教室」を開設したのには驚きでした。

あなたは退職後にも長く全道親の会の「理事」を務め、さらに「顧問」をお受けになり積極的に建設的な意見を述べられ親の会発展にも大きく寄与されました。

後で知ることになるのですが、あなたは平成17年(2005)頃から大腸ガン等に罹患して闘病していました。(門外漢16~21年号)さらに交通事故やポリプ手術と続き…、それらの病魔と闘いながらも地道に私たちを支え続けてこられたことを私たちは忘れません。

釧路旭小学校で担任した4年4組の子どもたちが、あれから58年の時を経て先生への思いを綴った「時を超えて」(令和2年・わかさ学級記念文集)を読ませてもらいましたが、改めてあなたの優しさに胸を打たれました。

もう10年以上も前に桑園のマンションを購入しそこへ移転することを楽しみにしておりましたが、も

ろもろの都合で深川を離れられずようやく引っ越し完了したのが一昨年末だったかと思います。爾来、私も2~3度お邪魔して昔話を交えて言語障害児教育の将来展望を語り合い楽しい時を頂きました。将にこれからという時にお別れすることになってしまいました。

4月5日、遅ればせながら石川さんと出向き最後のお別れをしましたが、やさしい奥様やご家族・兄弟を残してどんなに無念だったことかと胸の詰まる思いでした。こんな病気に負けてたまるかという心の強さ、子どもたちに向けるあの優しいまなざし、仕事に対する情熱と誠実さ、緻密な計画と行動力等本当に多くことを学ばせていただきました。

中山忠道さん、再び会うことは叶いませんが、心からご冥福をお祈りいたします。どうぞ安らかにお眠り下さい。

合掌



中山先生の思い出

中西 鈴子(元深川市立深川小学校)

親の会から「中山先生の思い出を」と依頼されましたが、どうしても実感がわかない気分でした。中山先生が旭川の厚生病院に通っていた頃、私も退職後に両股関節の手術をし、さらに乳がんになったので、中山先生の推奨する近藤誠医師の本を読んでいました。「癌について話そう」と約束していましたが、実現できないままでした。中山先生の探求心や研究心はいつも並々ならぬものなので、今となってはご高説を聞きそびれたと残念に思います。

深川小学校ことばの教室時代のことを思い出しますと、市内の保健師対象の学習会のことです。司会者の紹介で壇上に立った中山先生が数分間、無言のままだったので、周囲が少しざわついてきた頃、やっと「皆さんはどう感じましたか？」と切り口にして発音や吃音の問題について語り始めました。私も焦り始めたくらいでしたので、そんな導入方法に驚き、勇気があると思いました。

また、3歳児健診に参加して心配のある子を経過観察にしたこと、次に1歳児健診にも参加して相談にのる取り組みをしたことを思い出します。

何事にも人々の発想の先を行く方で、当時は珍しかったハミリカメラを中山先生が担いで、私たちは大きなバッテリーを手押し車に載せてカメラの後を追いかけていました。

当時、札幌の静療院で自閉症と診断された子どもも複数人いて、幼児の相談や通級が増えて、幼児担当者が2名となり、さらに情緒障害児学級の開設に向けて親の会活動の活動が活発になりました。市議会を傍聴し、担当教員の養成も決まりました。しかし、研修希望者がいなくて、当時の親の会の会長さんが私を説得に来て、翌年度の情緒障害児教員養成課程(教育大学旭川校)の長期研修を受けることになりました。その頃の親の会の活動は活発で、「地元の学校に通いたい」という保護者の希望をまとめて、翌年に情緒障害児学級ができました。

改めて、中山先生の意欲と能力を懐かしく思い出しました。

謹んで心よりお悔やみ申し上げます。





全国ことばを育む会

令和6年度総会・意見交換会報告

理事 福島 美恵子

全国ことばを育む会令和6年度総会が、6月2日(日)午前9時30分から東京豊島区の福祉財団ビルを会場に、対面及びズーム・オンラインのハイブリッド方式で開催されました。ズームで出席した全国総会と意見交換会について報告します。

I 総会

開会のことば、理事長挨拶に続いて、第1号議案 令和5年度活動報告、第2号議案 令和5年度活動計算書 第3号議案 令和6年度活動計画 第4号議案 令和6年度活動予算書 第5号議案 役員改選について議事が進められ、議案は全て承認されました。

紙幅の都合上、第3号議案 令和6年度活動計画で提案された5項目の内容について、若干説明を付け加えます。

1 聴覚・言語障がい・発達障がい等に関する情報提供について

- (1) ことば誌 110号～112号の発行 (2) 両親指導の手引書の一層の普及
- (3) ホームページのリニューアルによる情報発信

2 地方における親の会組織の充実を図る活動

- (1) 地域の問題解決のための親の会支援 (2) 第30回全国大会盛岡大会開催準備
- (3) 研修会講師派遣旅費の一部負担事業の実施 (3) オンライン環境貸出事業の実施

3 研修会、相談会、集団指導の実施

- (1) 国庫補助事業・保護者研修・福祉相談・療育キャンプ等
- (2) 全国研修会 令和6年6月1日(土)

4 関係諸機関、団体との連携強化

- (1) 要望活動 文部科学省、厚生労働省・子ども家庭庁への令和7年度予算編成に対する要望活動。文部科学省、内閣府等への各種改革提案・意見陳述とそのための各都道府県親の会へ一斉調査を実施予定
- (2) 加入団体との連携した活動
全国心身障害児福祉財団・全国特別支援教育推進連盟 など

II 意見交換会

総会に続き、意見交換会が行われました。会員の減少や後継者不足など全国各地の親の会が抱える課題は共通して見られます。個人情報保護や教員の働き方改革の影響も受けて新会員の加入が得られにくいことや、特段要望をあげなくても教室ができる、親御さんは皆働いていて忙しいなど今日的事情もあるようです。

合理的配慮について話題が及びましたが、通常の学級や学校全体で、当たり前のこととして合理的配慮が受けられるようにとの願いが述べられました。「親同士が学び合い、教員に頼りすぎず今の時代に合った活動を進めること。活動の土壌を深く掘り、親の会がつながっている意味を確かめ合うこと。教員定数法を正しく理解すること」など、最後のまとめの助言が心に強く残りました。



実施日：2024年3月23日(土曜)
11:00~12:30

場所：各参加者任意の場所から

なかなか対面で交流することのなかなかない中、今考えていること、悩んでいることを交流しようと茶話会を行いました。

個人でも会としてでも自由に参加できるネットワークが広がってほしい!とこれからも工夫を重ねて企画していきたいと思います。

参加者は、協議会の役員を含め8名でしたが、夕張、北見、網走、釧路、札幌から集まりました。齋藤寛子さんの進行で、距離は遠いのに気持ち近くあたたかい雰囲気です話に花が咲きました。

話題

- ・話題話題・自己紹介
- ・各地区の状況
- ・各地区の行事などの活動について
- ・直面している困りごと
- ・個人的にお伺いしたかったこと…etc



感想

- ・本日は参加させていただきありがとうございました。夕張や網走、北見での皆さんのさまざまな活動を伺って、自分たちの活動を振り返って検討したりなどできるな～と感じました。やはり、何か行動を起こさないとつながらないと思っています。(札幌・栗田)
- ・思い切って参加してみましたが、とてもよかったです。網走の方もいておどろきました。ゆるくつながっていただけるといいなと思いました。(北見・木村)
- ・日付や時間を決めたこのような形の茶話会は継続的に行えると良いと思った。また、出入り自由な茶話会や、情報を持っている人(心理師や相談支援の方など)の話題提供(学習会)付なども参加者増につながるかもとさまざまなことが前向きに考えられる茶話会でした。(札幌・齋藤)
- ・年度末ギリギリになっての企画で、できるのだろうかと不安でしたが、いろいろなアイデア、悩みを聞きながら、また頑張ってみようかなと思える時間でした。成長しても悩みは尽きないもの。どんな世代もどんなことでも、聞いているだけでも…つながっていると思える場になったらいいなと思いました。
(札幌・太田)

理事会報告



第 86 回理事会：3 月 23 日（土）

- 当日 WEB 茶話会の報告が行われ、理事を含めた 8 名で交流することができました。今後もこのような事業を行いたいと話しました。
- 総会議案書の項目を整理しました。4 月 2 日に会計監査の予定です。
- 役員改選について話し合われ、改めて各地区へ理事の選出について文書と電話で依頼をしていく方向になりました。
- 会報に掲載する理事会報告

第 87 回理事会：4 月 20 日（土） 第 88 回理事会：4 月 27 日（土）

- 役員改選、総会議案(今年度予算案など)の検討が行われました。
- 今後の協議会の運営について話し合われました。
- ウェブ茶話会の開催回数と時期について話し合われました。
- 総会で、全道大会の方向を示すことになりました。
- 環境づくり親子デイキャンプの開催について確認がありました。



第 89 回理事会：5 月 26 日（土）第 90 回理事会：6 月 8 日

- 5月26日に第 89 回理事会、6月8日に第 90 回理事会が行われました。
- 今年度の総会での附帯決議に伴い、第 89 回理事会において、瀧澤聡さん(北翔大学教授)の推薦がありました。理事会において承認されたため、瀧澤聡さんの理事就任が決まりました。
- 全国ことばを育む会北海道ブロック理事は瀧澤聡理事が担当することになりました。
- 6月2日の全国総会には、福島美恵子理事、瀧澤聡理事が参加することになりました。
- 口座名義人の変更など、事務的な確認が行われました。
- 会報の年間計画と、次号の執筆者確認がありました。
- 理事と事務局の業務分担の確認が行われました。
- 総会当日に実施できなかった全道交流会・意見交換会を実施する方向になりました。
- 今年度の事業内容について検討しました。
- 各地区からの理事推薦や事務局員の充足について話し合われました。
- 7月29日(月)に道言協研修会場(かでの2・7)において、「親の会パンフレット」予約を承ることになりました。

事務局からのお知らせ

特別支援教育研修会の開催

日時 2024年7月18日(木)~8月8日(木)
主催 北海道言語障害児教育研究協議会
ことばを育てる親の会北海道協議会
会場 YouTubeによる動画視聴
内容 講演「子どものことばの発達と大人との関わり」
講師 谷戸 諒太氏(国立特別支援教育総合研究所)
5月に各地区へ開催要項は送付されていて、締め切りが過ぎて
おりますが、感想等を会報でお知らせします。



全道WEB意見交換会の開催

日時 2024年7月27日(土) 10:00~11:30
目的 各地区の情報交換と北海道協議会に求めること等
申込 事務局連絡校 札幌市立中央小学校ことばの教室
詳細は後日各地区あてに開催要領をお知らせします。
全道総会の折に時間がとれずに改めて実施することになりました。
親の会の実情を知り未来を語る機会にしましょう。ぜひご参加を!!



親子デイキャンプ参加者募集

日時 2024年8月18日(火) 12:00~18:00
会場 余市教育福祉村(余市郡余市町登町 636)
会費 幼児 500円 小中学生 1,500円 大人 2,500円
参加対象 会員優先(一般参加も可)
開催要項は7月中旬ごろに各地区へお知らせします。
海と山を望む丘で思い切り遊び、「のんびり」を満喫できます。
自然の空気と人とふれあいと自由な空間を楽しみましょう!!



地区研修会補助事業の募集

今年度から地区で計画している研修会に北海道協議会から事業に対して補助をします。1地区に限り30,000円ですが、少しでも活動の広がりにお手伝いできたらと計画しました。
後日、詳細をお知らせいたします。ぜひ、ご応募を!!



○親の会の事務局連絡校は下記のとおりです。お問い合わせは下記までお願いします
〒060-0041 北海道札幌市中央区大通東 6-12

中央小学校ことばの教室内 電話(直通)011-241-2533

○地区分担金の送金先は次の通りです。総会資料に同封した振込票をお使いください。
(ゆうちょ銀行の ATM を利用して、通帳またはカードで振り込む場合のみ手数料が無料となります。
現金による振込等の場合は手数料が発生しますので、ご負担をお願いいたします)
なお、会長交代に伴う名義変更手続きが終了するまで、下記送金先でお願いいたします。

準会員・寄付のお願い



○準会員(事業に協力する個人、法人、任意の団体)を募集しています。また、協議会の事業に賛同して下さる方の寄付も大歓迎です。ご送金の場合は振込取扱書の通信欄に「準会費」「寄付」とご明記ください。

郵便振替	口座番号 02790-5-□□44186 加入者名 NPO法人ことばを育てる親の会
郵便貯金 口座振込み	記号 19030 番号 32430171 口座名 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会
銀行	北洋銀行 北7条 支店(店番 312) 口座番号 3527965 受取人 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会 会長 福井 紀郎



HSK 会報 昭和48年1月13日第三種郵便物承認(毎月10日発行)

2024年7月10日会報186号(HSK通巻628号)

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人
ことばを育てる親の会北海道協議会

会長 山本 光子 定価 100円(会員分は会費に含む)

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東6-12

札幌市立中央小学校ことばの教室内 Tel011-241-2533